

市内産の木材をふんだんに使用した新庁舎  
利便性を追求し1階にすべての課を集約

新川崎支所の開庁式は7月14日、同庁舎前で行われ、関係者、市民ら約100人が開庁を祝いました。勝部修市長は「外観は伝統的な切妻大壁造で、木の香りに包まれた温かみのある建物。利用しやすい支所になってほしい」と式辞を述べました。

新庁舎は二階建ての木造建築。市内産のスギとカラマツをふんだんに使用しています。延べ床面積は633・78平方メートル。自家発電や太陽光発電などの設備があり非常時にも庁舎機能を維持します。川崎町薄衣から農業関係の相談に訪れた高橋宮一さん(80)は「窓口が1階にまとまっていて分かりやすい。便利になったと思います」とほほ笑みました。



国内最高峰のモトクロス大会  
藤沢で200人のライダーが速さ競う

東北モーターサイクルスポーツ協会(八木橋政吾会長)が主催する「2015全日本モトクロス選手権シリーズ第6戦・東北大会」は7月18、19の両日、藤沢町新沼の藤沢スポーツランドで開かれました。「IA1」という国内トップクラスのライダーをはじめとする約200人の選手が全国各地から参加。自然の地形を生かした起伏の激しい1.75キロメートルのコースの中で、走りの速さを競いました。

選手らは、連続する急カーブを巧みなマシンコントロールで次々に攻略。スタンド直前で数分の大ジャンプを見せると、観客から大きな歓声が上がりました。



「みんなの寺」にNPO法人の設立認証  
寺に頼らない葬儀や新しい墓の様式を提案

真柴字矢ノ目沢の「みんなの寺」(小野寺恵美理事長)は7月7日、勝部修市長からNPO法人設立認証書を受け取りました。同法人の設立目的は、寺に頼らない葬儀や埋骨の様式を広く住民に紹介し、新たな社会システムを構築すること。

小野寺理事長は「独り身や経済的な理由で、墓を守っていくことに不安や悩みを持つ人が増えている。管理や費用の負担を減らす方法や、簡単な墓や合祀墓地など、新しい墓の様式を提案していく。終活(生前のうちに葬儀や墓などの準備や、相続の計画を立てること)への不安があれば相談してほしい」と語りました。



藤沢町本郷神楽の100周年記念行事  
節目の年に見せた勇壮な舞い

藤沢町藤沢の本郷神楽保存会(佐藤賢吉代表、会員9人)の創生100周年記念事業は7月12日、藤沢字八沢の本郷白藤交流館で開かれました。同神楽は、1914年に地元の有志が創設した南部神楽。神舞7神楽と呼ばれる演目などを伝承しています。

同日は、翁舞、三番叟、山之神舞など6演目を披露。佐藤代表は「みんなの力で迎えた100年の節目。今後の伝承活動に身が引き締まる思い」と決意を新たに。藤沢町大籠から来た佐藤智幸さん(40)は、「素晴らしい。貴重な舞を見ることができた」と力のこもった演技に見入っていました。

16年ぶりの山ノ神舞に大きな拍手  
大東町市之通神楽が上演会を開く

大東町鳥海の市之通神楽(伊東吉之進代表、会員12人)の上演会は6月28日、市之通自治交流会館「宝来館」で開かれました。

同日は、御神楽、山ノ神舞、三番叟の3演目を上演。このうち、山ノ神舞は1999年を最後に上演が途絶え、さらに、同神楽で太鼓を務めていた伊東養太郎さんが亡くなったことで、継承が難しくなっていました。今回、市教委が行っている南部神楽調査研究事業で上演会を企画。それに合わせ、養太郎さんの息子の重雄さん(75)が、4月下旬から太鼓の練習を重ねてきました。

本番では、力強い太鼓の音に合わせ、勇壮な舞いが披露され、訪れた住民ら約100人から大きな拍手が送られていました。



磐井川河川公園で水防訓練  
「市民参加型」で防災意識を高める

市の水防訓練は7月5日、関係機関や市民ら約800人が参加し、磐井川河川公園で開かれました。同訓練は市民を災害から守り、水防意識を高めることが目的。昨年までは狐禅寺の一関水辺プラザで行われていましたが、より多くの市民に見てもらおうと12年ぶりに市街地で行いました。

訓練では、水防隊員が堤防の亀裂を防ぐ五徳縫い工法などの技術を披露。また、応急手当てや土のう作りなど、市民参加型の訓練も初めて実施。訓練を通して市民が防災意識を高めました。土のう作りを体験した末広の菊池結登くん(7)は「土のうはとても重かったけど楽しかった」と話してくれました。



首都圏への本格的な出荷が始まる  
夏秋野菜の出発式で目標達成を誓う

JAいわて平泉の夏秋野菜出発式は6月26日、花泉町金沢の西部園芸センターで行われました。同JAの主力であるトマト、ナス、キュウリ、ピーマン、ミニトマトの5品目の部会員や関係者ら約80人が出席。販売促進や目標の達成を誓い合いました。

佐藤鉦一組合長は「今年は天候に恵まれ、野菜の質も高い。ブランド化には信用と実績が必要。より良い品質の野菜を市場や消費者に届けられるよう努力したい」とあいさつしました。今年度の5品目の販売金額目標は約14億3172万円。出荷量も前年以上を目標に掲げています。



例年より5日早く「みちのくあじさいまつり」開幕  
色鮮やかなアジサイが咲き誇る

あじさいの郷づくり推進会議(佐藤悦郎会長)が主催する「みちのくあじさいまつり」は6月26日、舞川のみちのくあじさい園で開幕しました。同園園主の伊藤達朗さんは「今年は高温で開花が10日ほど早まった。雨が少なく、花の大きさが小さいものもあるが、見事に咲いた多種多様な花を楽しんでほしい」と話しました。

手入れされた杉山の間に続く遊歩道をヤマアジサイなどのきれいな花が彩ります。また、今年は池坊華道会の「池坊花道選100選」に認定されたことを記念し、同会員による生け花展を開きました。